



山口 真矢

Shinya Yamaguchi

総務省 行政管理局 管理官
(業務・システム改革総括、
府省共通情報システム)

日本行政を高める

これまでのキャリアをふりかえって

国家公務員となって20年余りが過ぎましたが、これまでの仕事を振り返ると、

その時々々の行政の課題や国民の声を受け止めて、組織・定員査定や政策評価など様々な手法で、霞が関という組織は何を変えなければならないのか、どのような方向へ向かうべきなのかを考え、微力ながら実践してきたように思います。

いかにして日本行政を高めるか。

これは総務省の重要なミッションの一つであり、私自身のミッションでもあります。

他省庁や地方自治体への出向などを通じて、行政内外の多くの優れた方々との出会いがあったことも公務員としての財産となっています。

総務省は、努力と能力次第で、幅広い活躍の機会を与えられる

組織であることを実感します。総務省を志す方々にとって、

私のささやかなキャリアパスが参考となれば幸いです。



■2015～現在 行政管理局管理官 2014～2015 行政管理局企画調整課企画官

霞が関も、働き方・仕事の仕方を変えていかなければなりません。霞が関でも変わるのだ、ということは日本全体にインパクトを与えます。行政管理局は、霞が関の業務改革の旗振り役となって推進することをミッションの一つとしています。現在、私は、行政機関が保有する個人情報について、新たな取扱いのルールを整備するための法改正に取り組んでいますが、国民的な関心と呼ぶテーマであるだけに、丁寧な説明を心掛けたいと考えています。

■2012～2014 船橋市副市長 2010～2012 大臣官房秘書課課長補佐

大臣官房秘書課で人事・採用を担当した後、大都市でのトップマネジメントを経験する機会をいただきました。いかにお役に立つかを日々考え、仕事の成果が目の前の住民から問われるという緊張感の中で、現場に根差した政策立案や現場との対話の大切さを実感しました。地域社会を支える方々との御縁も貴重な財産です。

■2008～2010 行政評価局総括評価監視調査官

政策評価制度の総括担当として、政策評価をいかに実効あるものとするかに取り組んだ2年間でした。その一環として、当時の政権の下、見直しの必要性が指摘されていた租税特別措置について、評価を導入し透明化を図るべく、税務当局の方々と連携しながら評価の仕組みを設計し、制度化しました。行政の対応として何が求められているのかを捉え、対応策を立案し、各省庁を動かしていくことは、総務省の重要な役割です。

■2006～2008 行政管理局副管理官

警察、法務という治安を預かる官庁の組織・定員の査定を担当しました。深刻化する日本の治安をどう立て直すかが課題でしたが、効率的な行政を維持しながら、入管や刑事施設、情報収集体制の強化などに相手省庁の方々と協力して取り組んだことが印象深く残ります。査定は、「切る」ことに意味があるのではなく、その時々々の課題に対応して資源の最適配分を図ることが大切で、その目を常に磨きたいものです。

■2003～2006 内閣法制局第一部参事官補

集团的自衛権の議論で広く知られるようになった内閣法制局ですが、政府におけるいわば法律の専門家集団。「何で私が?」と思いつつも、いったん辞令を受けたら、覚悟を決めて最善を尽くすのが公務員です。小泉内閣での郵政解散の憲法上の是非など、知的刺激に富む法律問題に取り組みました。各省庁から出向する優れた方々と一緒に仕事できたことも財産となっています。

■2002～2003 内閣官房行政改革推進事務局参事官補佐

課長補佐クラスとして初めて担当したのは、内閣官房での公益法人改革です。不透明であると指摘されていた行政と公益法人の在り方の改革に取り組み、各省庁の担当者との厳しい議論を重ねながら、制度改革を実現することができました。現状を変えることには摩擦がつきものですが、長期的な視野に立ってあるべき姿を自ら考え、説得し協力を得ていく貴重な経験でした。行政の向かうべき方向性を見定め、各省庁をまとめていくこと。ここでの経験は、公務員としての私の原点の一つとなっています。

■1998～2000 行政管理局(行政改革担当)

印象深いのが、行政管理局での行政改革の担当です。当時は、中央省庁再編に向けて、霞が関、永田町が熱気を帯びていた時期でしたが、政府側と与党行政改革推進本部との連絡役の仕事を経験させていただきました。戦後の行政体制を改革するために政治と行政の間でどのような調整が行われ、どのように意思決定がなされるかの現場を体験し続けた2年間でした。出向先の公正取引委員会や行政評価局では、法改正や新法の立案を担当し、上司の指導を受けながら、自ら条文を書き、法制局審査や各省調整に取り組む機会を得ました。

■1994～1996 内閣総理大臣官房総務課(旧総理府・総務庁の合同採用)

振り出しは、旧総理府の総務課。大量の情報・文書の集まる部署で、文書審査、法令の起案、国会対応など、先輩職員の指導の下で仕事の基本を教わった時期です。学生時代には想像もつかない圧倒的な量と質の業務を前に、「自分はやっていけるのだろうか」と自問した日々を思い出しますが、修行時代の経験は確実にその後につながっています。

